

岡山県感染症週報 2015年 第7週 (2月9日～2月15日)

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

◆2015年 第7週(2/9～2/15)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第5週 2類感染症 結核 3名(40代 男 1名、60代 女 1名、90代 男 1名)

第6週 2類感染症 結核 3名(50代 女 2名、60代 男 1名)

4類感染症 レジオネラ症 1名(80代 男)

5類感染症 ウイルス性肝炎 1名(40代 男)

播種性クリプトコックス症 1名(80代 男)

第7週 2類感染症 結核 3名(70代 女 1名、80代 男 1名、90代 女 1名)

5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(60代 女)

■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で957名(定点あたり21.14→11.39人)の報告があり、前週より減少しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で322名(定点あたり7.11→5.96人)の報告があり、前週より減少しました。

【第8週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が9施設でありました。(2月16日～18日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で957名(定点あたり21.14→11.39人)の報告があり、前週より減少しました。岡山県は、『インフルエンザ警報』発令中であり、ひきつづき広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市(16.38人)、備北地域(13.83人)、備中地域(13.25人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。全ての地域で患者の減少がみられましたが、依然として多くの患者が報告されており、倉敷市、備北地域、備中地域、真庭地域(13.00人)では大きな流行が継続しています。インフルエンザによる入院患者は、6名の報告がありました。インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、37施設でありました。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で322名(定点あたり7.11→5.96人)の報告があり、前週より減少しましたが、依然として多くの患者が報告されています。地域別では、美作地域(7.83人)、備前地域(7.80人)、備北地域(7.75人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「感染性胃腸炎週報」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少 : 1.1～2倍未満の減少 : 1.1未満の増減
 : 1.1～2倍未満の増加 : 2倍以上の増加

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

インフルエンザ週報 2015 年 第 7 週 (2 月 9 日 ~ 2 月 15 日)

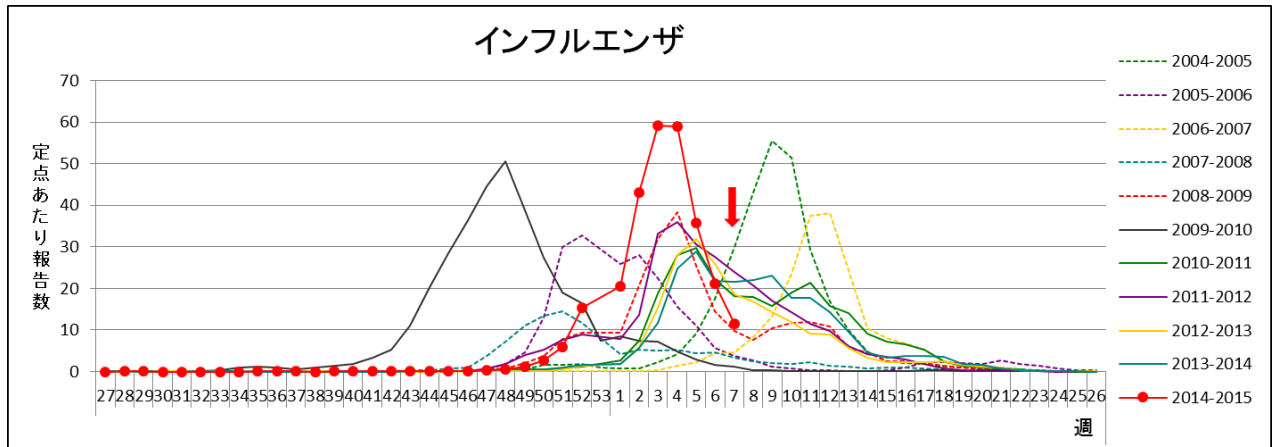
岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 957 名（定点あたり 21.14 → 11.39 人）の報告があり、前週より減少しました。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 37 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 6 名の報告がありました。

【第 8 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 9 施設でありました（2 月 16 日～18 日）。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 957 名（定点あたり 21.14 → 11.39 人）の報告があり、3 週連続で減少しました（84 定点医療機関報告）。県全体の報告数は、第 3、4 週をピークに大きく減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、県内での流行は続いています。岡山県は、『インフルエンザ警報』発令中であり、引き続き広く注意を呼びかけています。

地域別では、倉敷市（16.38 人）、備北地域（13.83 人）、備中地域（13.25 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。全ての地域で患者の減少がみられましたが、倉敷市、備北地域、備中地域、真庭地域（13.00 人）では、大きな流行が継続しています。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『十分な睡眠を取る』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザは依然として流行期にあります。 ひきつづき感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな？という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

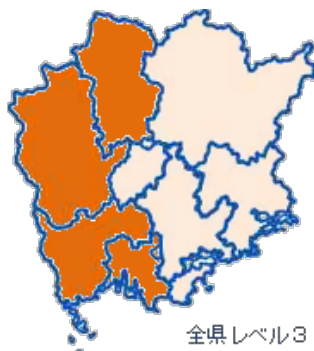
1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	957	↓	備 中	患者数	159	↓
	定点あたり	11.39			定点あたり	13.25	
岡山市	患者数	217	↓	備 北	患者数	83	↓
	定点あたり	9.86			定点あたり	13.83	
倉敷市	患者数	262	↓	真 庭	患者数	39	↓
	定点あたり	16.38			定点あたり	13.00	
備 前	患者数	107	↓	美 作	患者数	90	↓
	定点あたり	7.13			定点あたり	9.00	

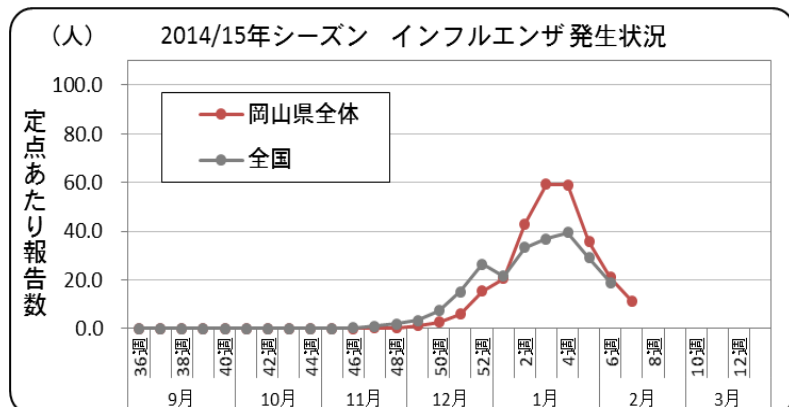
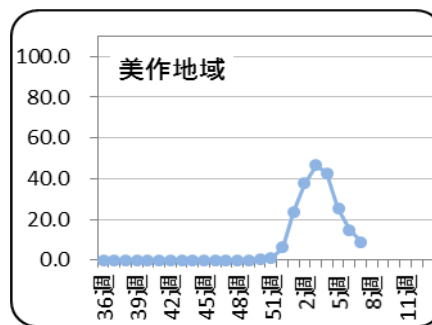
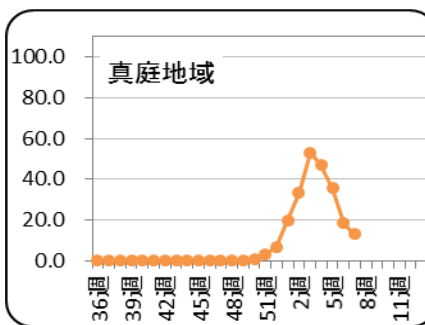
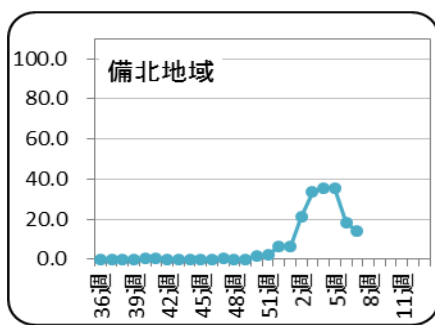
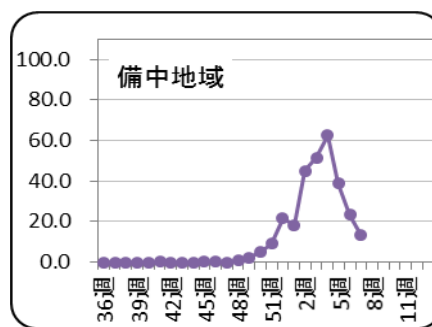
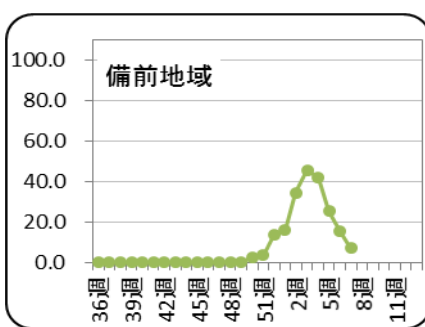
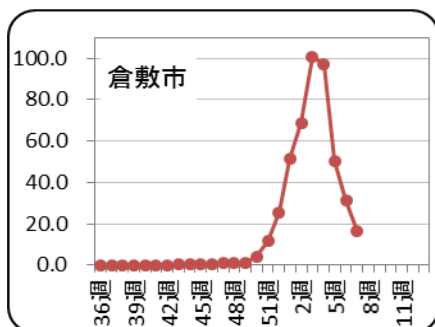
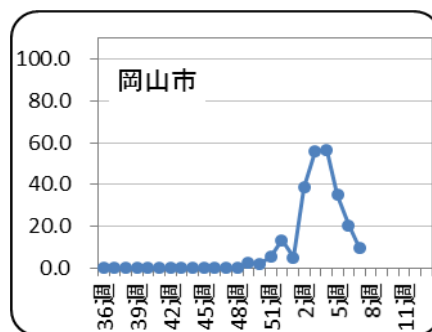
【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↓ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↑ 2倍以上の増加 ↑

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0< 10未満		0

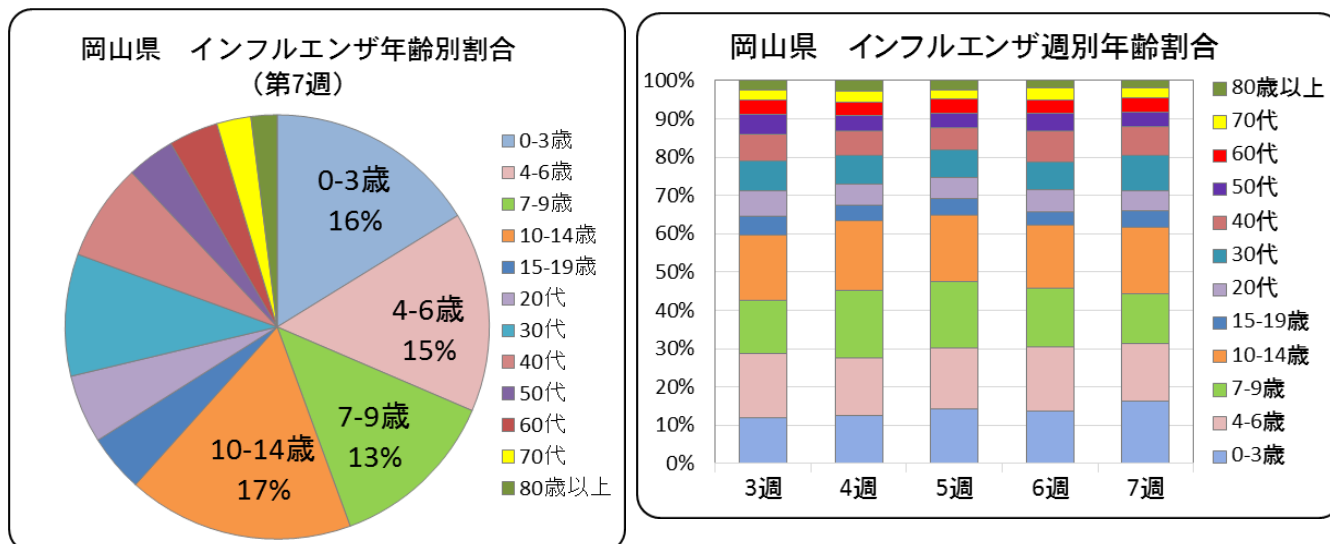


全国集計第6週（2/2～2/8）速報値によると、全国の定点あたり報告数は19.03人であり、前週（29.11人）よりも減少しました。

都道府県別では、新潟県（35.86人）、大分県（34.48人）、鹿児島県（31.96人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、全ての都道府県で前週の報告数よりも減少しました。

2. 年齢別発生状況

第7週の年齢別割合は、10-14歳 17%、0-3歳 16%、4-6歳 15%の順で報告数が多くなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

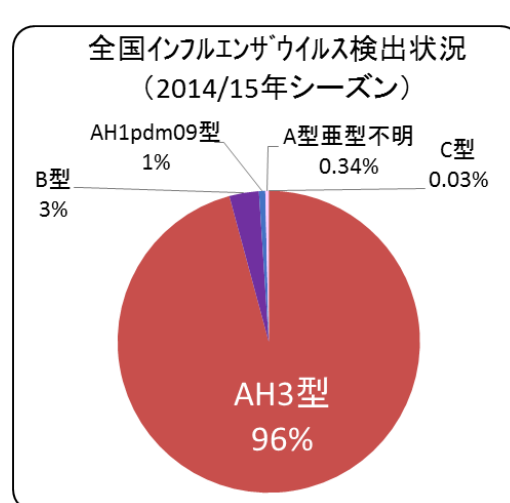
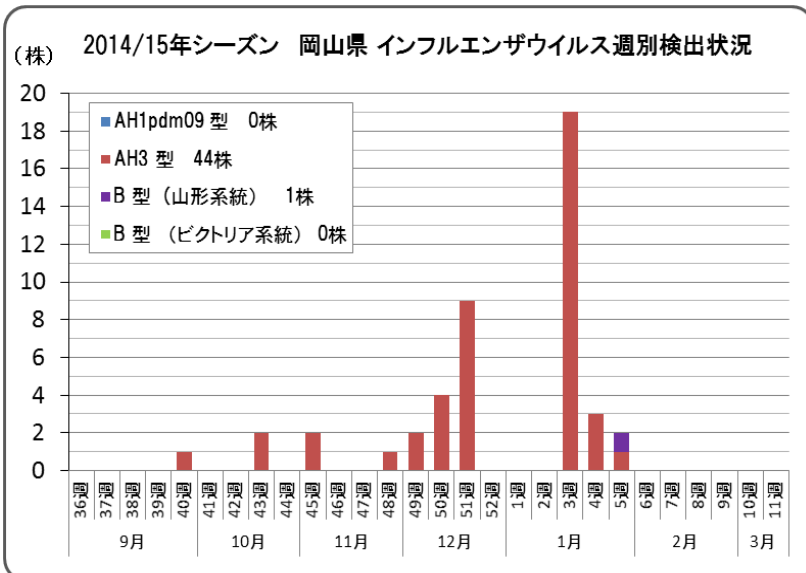
第7週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは AH3 型が 6 株、B 型が 1 株でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 44 株（98%）、B 型が 1 株（2%）となっています。

・[\(岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況\)](#)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、岡山県と同様、AH3 型の検出割合が最も多く 96%、次いで B 型が 3%、AH1pdm09 型が 1% の順となっています。（2015 年 2 月 19 日現在）

・[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)\)](#)

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスB型	2015年第 5週(1/26～ 2/1)	2015/1/28	岡山市	小学生	女	山形系統
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第 3週(1/12～ 1/18)	2015/1/17	備中	小学生	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第 3週(1/12～ 1/18)	2015/1/16	岡山市	小学生	女	
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第 3週(1/12～ 1/18)	2015/1/16	岡山市	10代	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第 3週(1/12～ 1/18)	2015/1/16	岡山市	40代	女	
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第 3週(1/12～ 1/18)	2015/1/16	備中	小学生	女	
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第 3週(1/12～ 1/18)	2015/1/15	岡山市	80代	女	

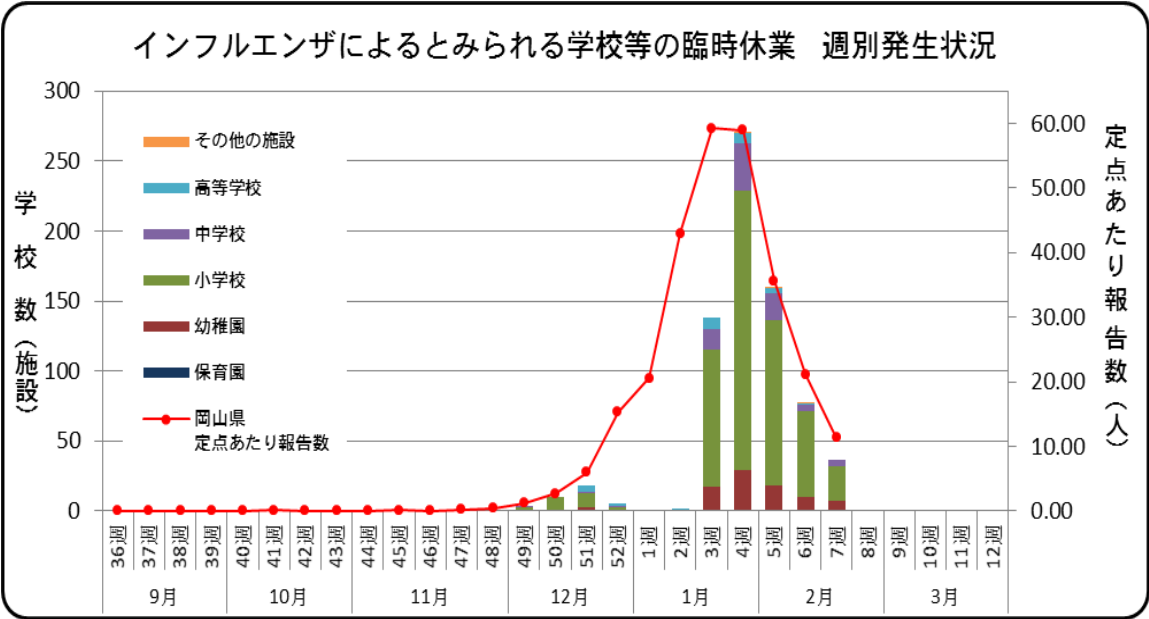


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 37 施設でありました。

【第 7 週 臨時休業施設数】

▽岡山市 10 ▽倉敷市 8 ▽津山市 5 ▽玉野市 2 ▽総社市 2 ▽高梁市 2
▽赤磐市 2 ▽美作市 2 ▽矢掛町 2 ▽真庭市 1 ▽浅口市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	461	11655	347	9075	37	724	0	15	13	175	24	534	H26.10.21
岡山市	170	4881	116	3668	10	285	0	2	2	39	8	244	H26.12.1
倉敷市	104	2773	74	2263	8	152	0	3	2	24	6	125	H26.10.21
備前地域	41	672	34	566	4	55	—	—	1	20	3	35	H26.12.9
備中地域	39	1509	36	1190	5	116	0	5	4	45	1	66	H26.12.8
備北地域	39	286	25	146	2	8	0	1	1	4	1	3	H27.1.16
真庭地域	12	205	12	172	1	19	0	1	0	10	1	8	H26.12.16
美作地域	56	1329	50	1070	7	89	0	3	3	33	4	53	H27.1.13

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

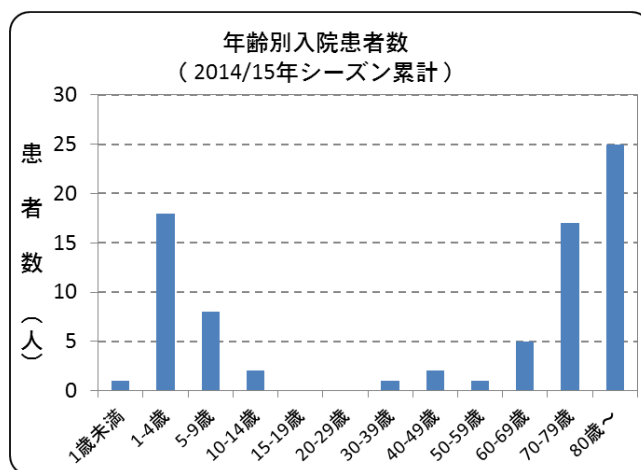
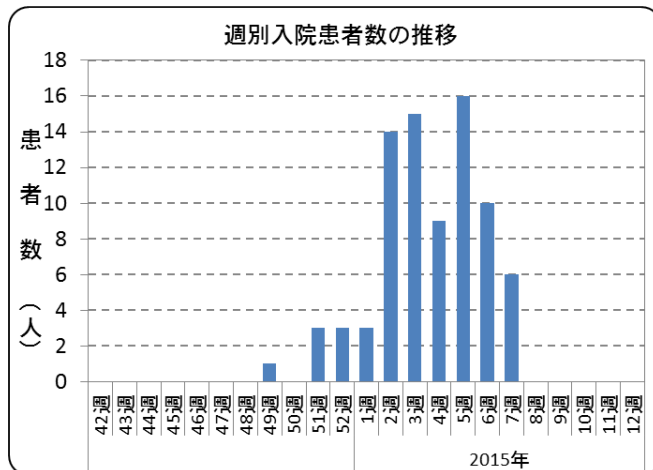
第 7 週：37 施設 累計：724 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	7	84	25	530	5	82	0	25	0	3

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、6 名（1 歳未満 1 名、1～4 歳 2 名、70～79 歳 1 名、80 歳以上 2 名）の報告がありました。入院患者の多くは、4 歳以下の幼児と 70 歳以上の高齢者となっています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 7 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数	1	2									1	2	6
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)													
頭部 MRI 検査 (予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず	1	2									1	2	6

* 重複あり

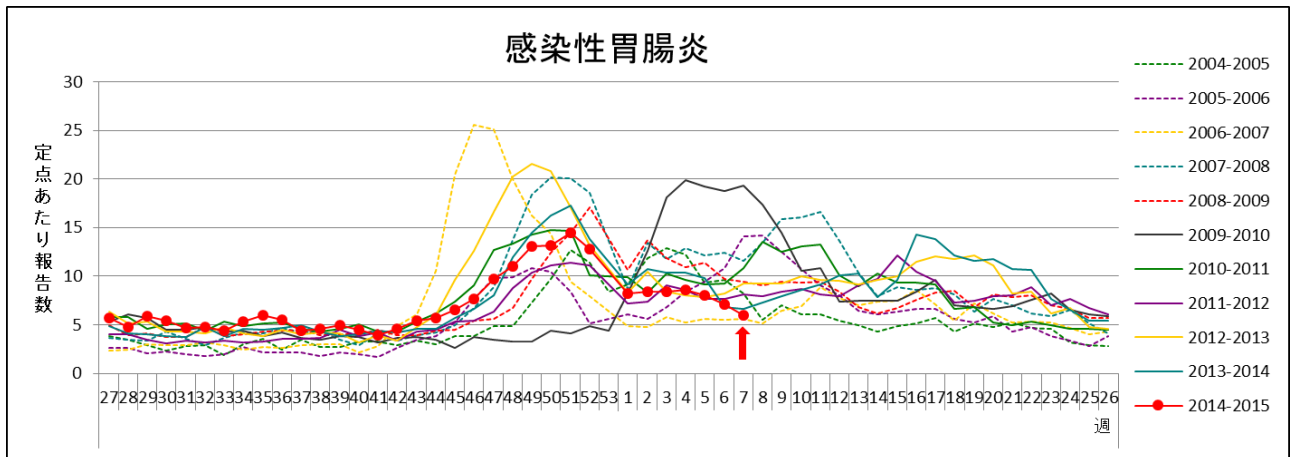
【2014 年 9 月 1 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数	1	18	8	2			1	2	1	5	17	25	80
ICU 入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)		5								2	3	3	13
頭部 MRI 検査 (予定含)		1		1							2		4
脳波検査 (予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず	1	13	8	1			1	2	1	3	12	22	64

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2015年 第7週 (2月9日～2月15日)

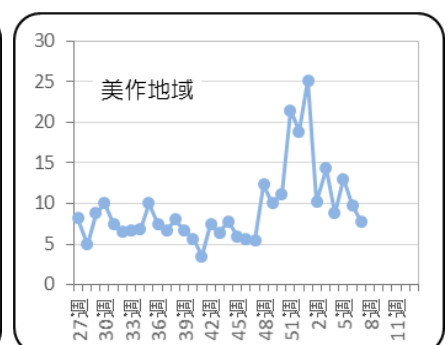
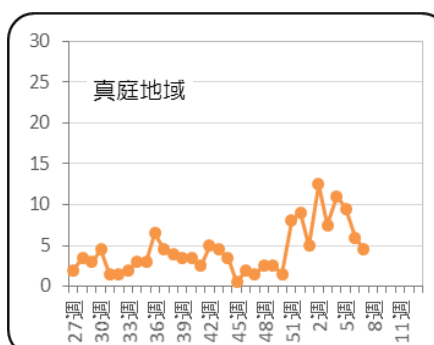
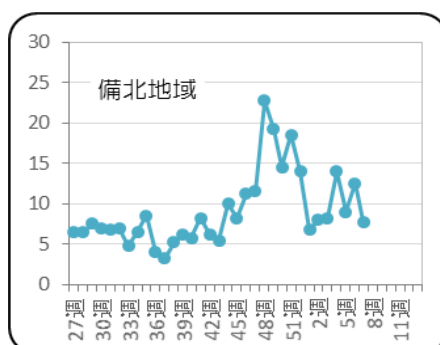
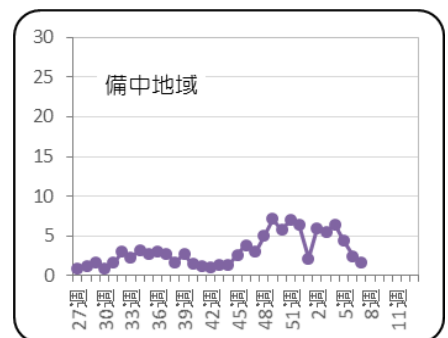
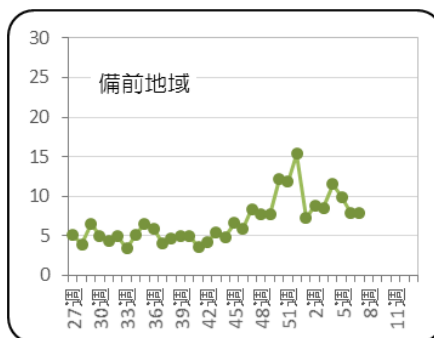
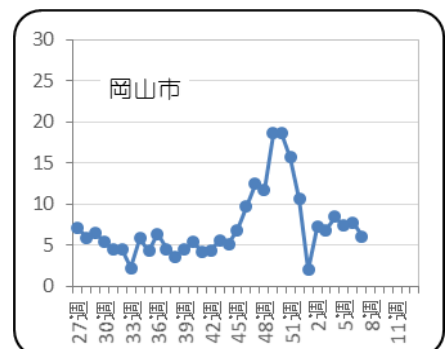
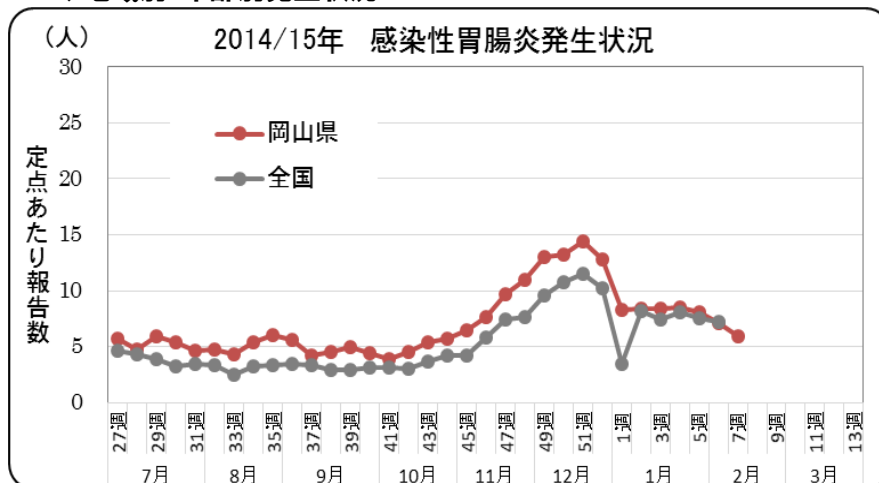
○感染性胃腸炎は、県全体で322名（定点あたり7.11 → 5.96人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。



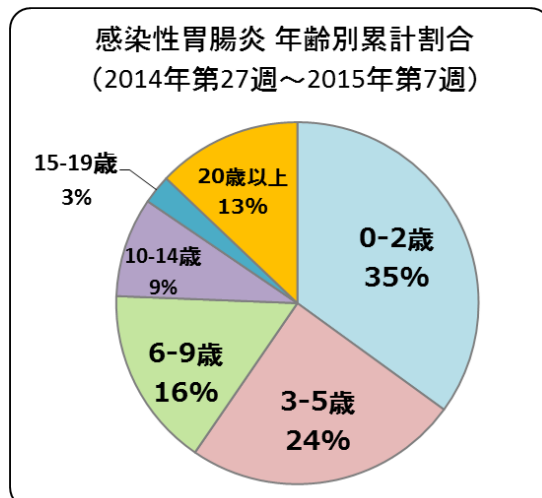
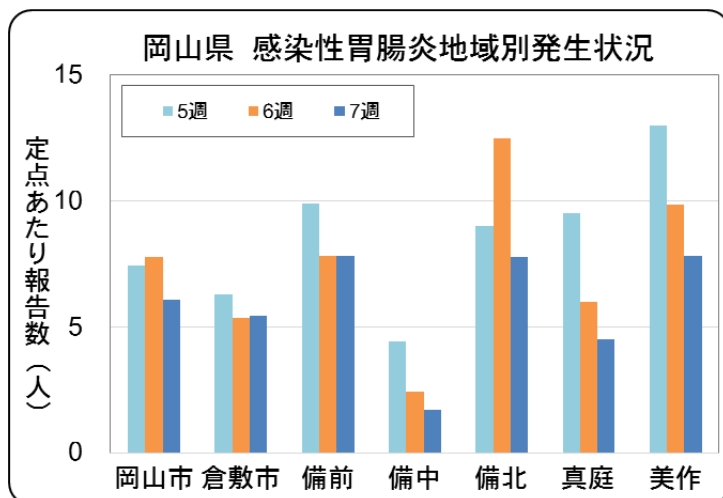
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で322名（定点あたり7.11 → 5.96人）の報告があり、2週連続で減少しましたが、依然として多くの患者が報告されています。2月初旬、岡山県内で、冬の感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスによる食中毒事件が発生し、また全国でもノロウイルスによる食中毒事件や集団感染が発生しています。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・嘔吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、美作地域（7.83 人）、備前地域（7.80 人）、備北地域（7.75 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、前週とほぼ同数であった備前地域及び倉敷市以外の地域では、定点あたり報告数が減少しています。年齢別累計では、5 歳以下の乳幼児が全体の 59% を占めています。



ノロウイルスに感染しないためには

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

嘔吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、嘔吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。ノロウイルスにアルコールは消毒効果が低いとされています。

3. 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗した後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を 85～90℃で 90 秒間以上）

[ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省ホームページ）](#)

[食中毒（ノロウイルス）注意報を発令中です（岡山県ホームページ生活衛生課）](#)

保健所別報告患者数 2015年 7週 (2015/02/09～2015/02/15)

2015年2月18日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	957	11.39	217	9.86	262	16.38	107	7.13	159	13.25	83	13.83	39	13.00	90	9.00
RSウイルス感染症	16	0.30	4	0.29	5	0.45	3	0.30	—	—	—	—	—	—	4	0.67
咽頭結膜熱	12	0.22	5	0.36	3	0.27	—	—	—	—	1	0.25	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	1.20	25	1.79	23	2.09	3	0.30	1	0.14	4	1.00	4	2.00	5	0.83
感染性胃腸炎	322	5.96	85	6.07	60	5.45	78	7.80	12	1.71	31	7.75	9	4.50	47	7.83
水痘	25	0.46	7	0.50	7	0.64	1	0.10	—	—	6	1.50	—	—	4	0.67
手足口病	22	0.41	7	0.50	8	0.73	1	0.10	5	0.71	1	0.25	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	19	0.35	8	0.57	5	0.45	3	0.30	1	0.14	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
ヘルパンギーナ	2	0.04	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	8	0.15	4	0.29	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2015年 7週 (2015/02/09～2015/02/15)

2015年2月18日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	957	11.39	217	9.86	262	16.38	107	7.13	159	13.25	83	13.83	39	13.00	90	9.00
咽頭結膜熱	12	0.22	5	0.36	3	0.27	—	—	—	—	1	0.25	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	1.20	25	1.79	23	2.09	3	0.30	1	0.14	4	1.00	4	2.00	5	0.83
感染性胃腸炎	322	5.96	85	6.07	60	5.45	78	7.80	12	1.71	31	7.75	9	4.50	47	7.83
水痘	25	0.46	7	0.50	7	0.64	1	0.10	—	—	6	1.50	—	—	4	0.67
手足口病	22	0.41	7	0.50	8	0.73	1	0.10	5	0.71	1	0.25	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
ヘルパンギーナ	2	0.04	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	8	0.15	4	0.29	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第7週 2015/02/09～2015/02/15)

疾病名	合計	－6ヶ月	－12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	957	5	11	46	49	44	48	49	49	52	33	39	165	42	50	89	71	35	36	25	19

疾病名	合計	－6ヶ月	－12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	16	7	1	7	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	12	－	5	5	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	－	1	4	3	3	5	14	14	4	6	3	5	2	1
感染性胃腸炎	322	3	10	40	25	33	21	25	19	16	17	9	37	5	62
水痘	25	－	1	1	5	4	4	3	2	1	1	－	3	－	－
手足口病	22	－	－	8	6	－	3	2	2	－	－	1	－	－	－
伝染性紅斑	3	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	1	－	－	－
突発性発疹	19	1	8	10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	2	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	8	－	－	－	1	3	－	－	－	1	－	2	1	－	－

疾病名	合計	－6ヶ月	－12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

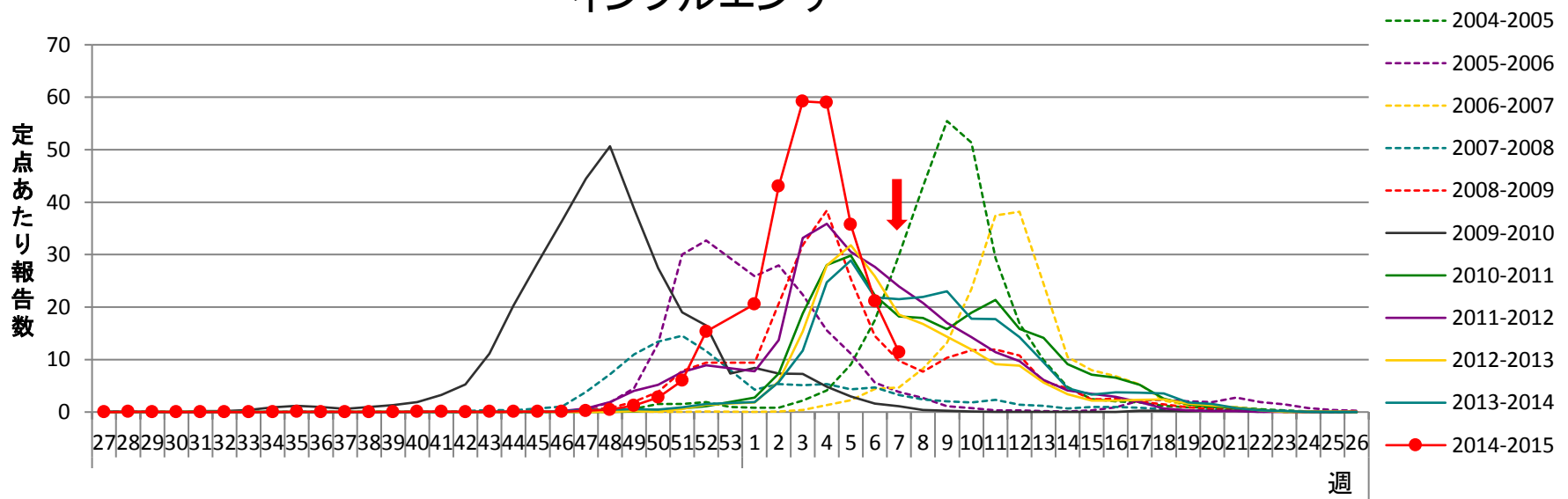
(－：0)

全数把握 感染症患者発生状況

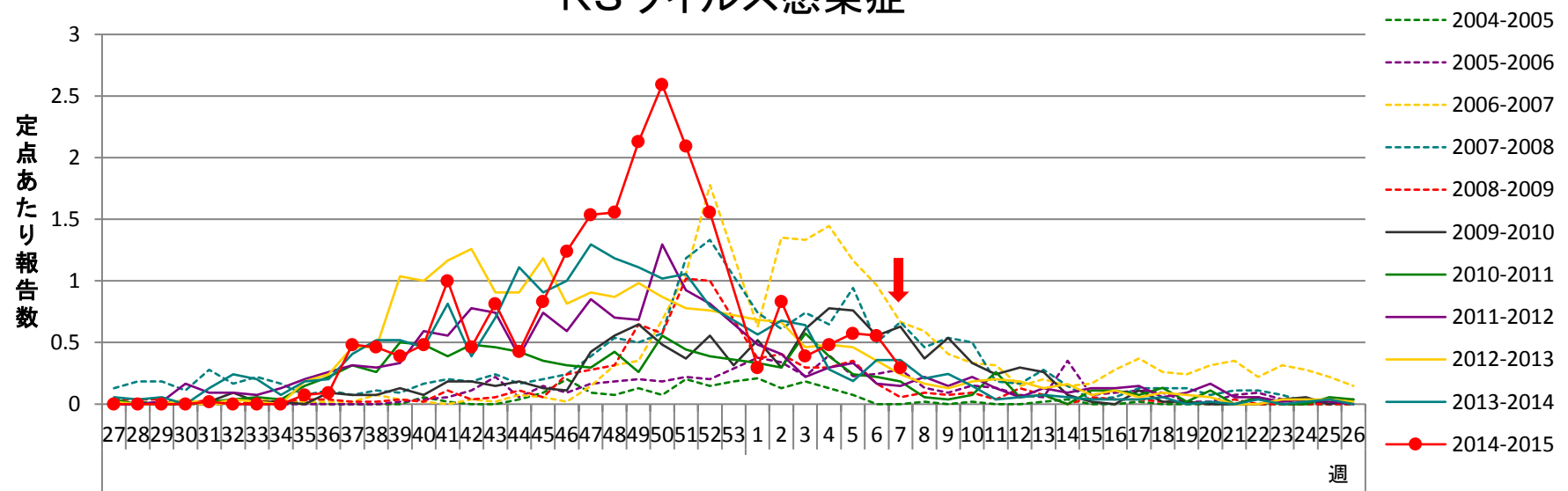
2015 年 7 週

分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	30	381	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	70	
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	8	
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-	
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	4	32	レプトスピラ症	-	-	-	
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	3	12	ウイルス性肝炎*3	-	2	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	2	12
		急性脳炎*4	-	1	9	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	3	後天性免疫不全症候群	-	2	21	ジアルジア症	-	-	1	
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	7	27	
水痘(入院例に限る。)		-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	-	21	
播種性クリプトコックス症		-	1	-	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6	
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-	

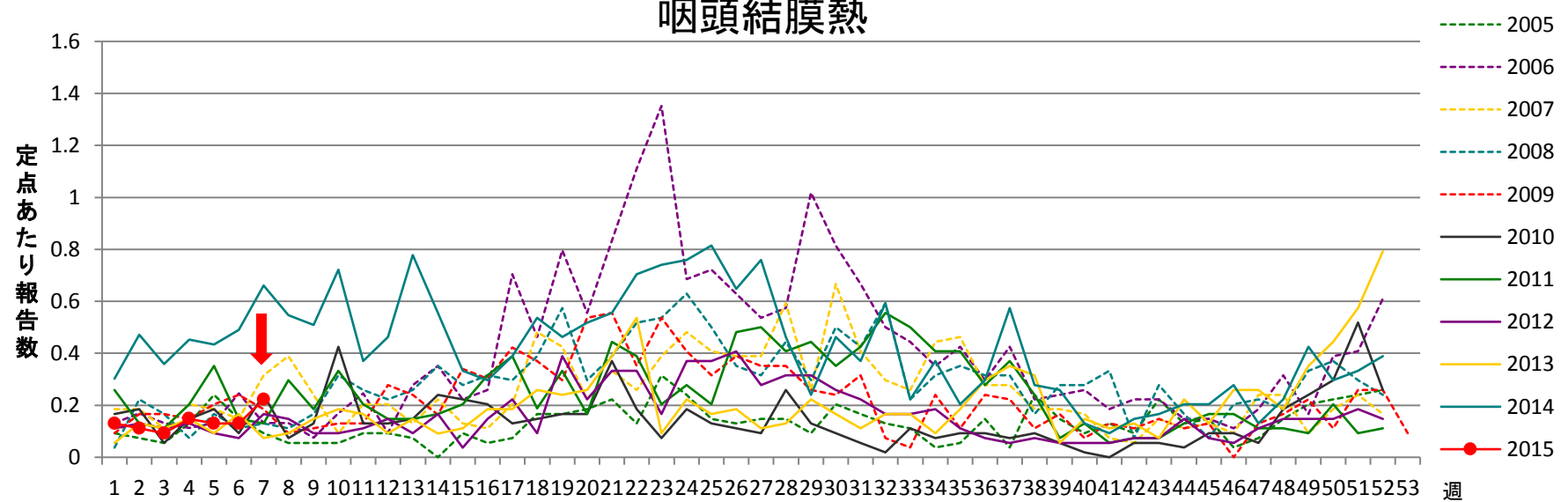
インフルエンザ



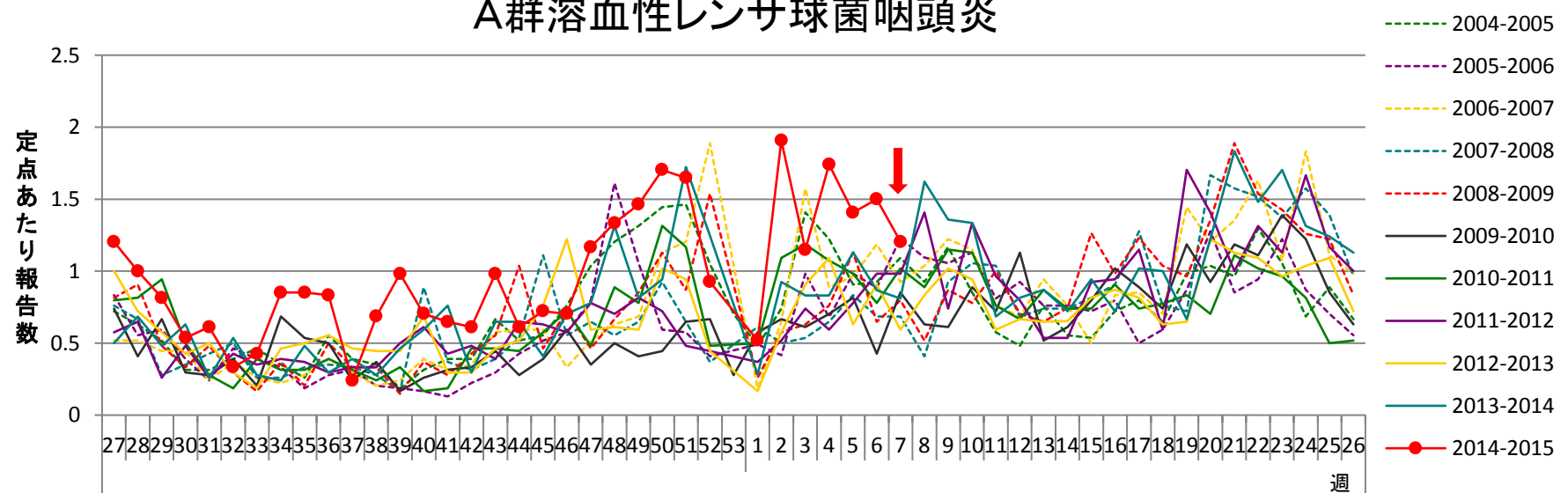
RSウイルス感染症



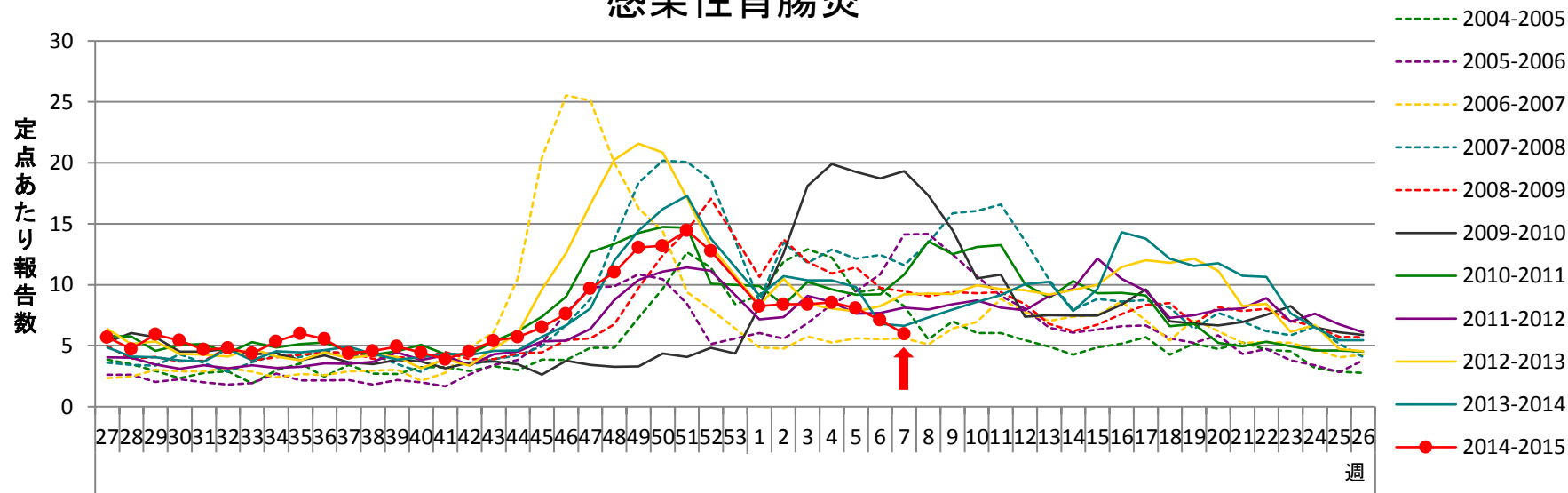
咽頭結膜熱



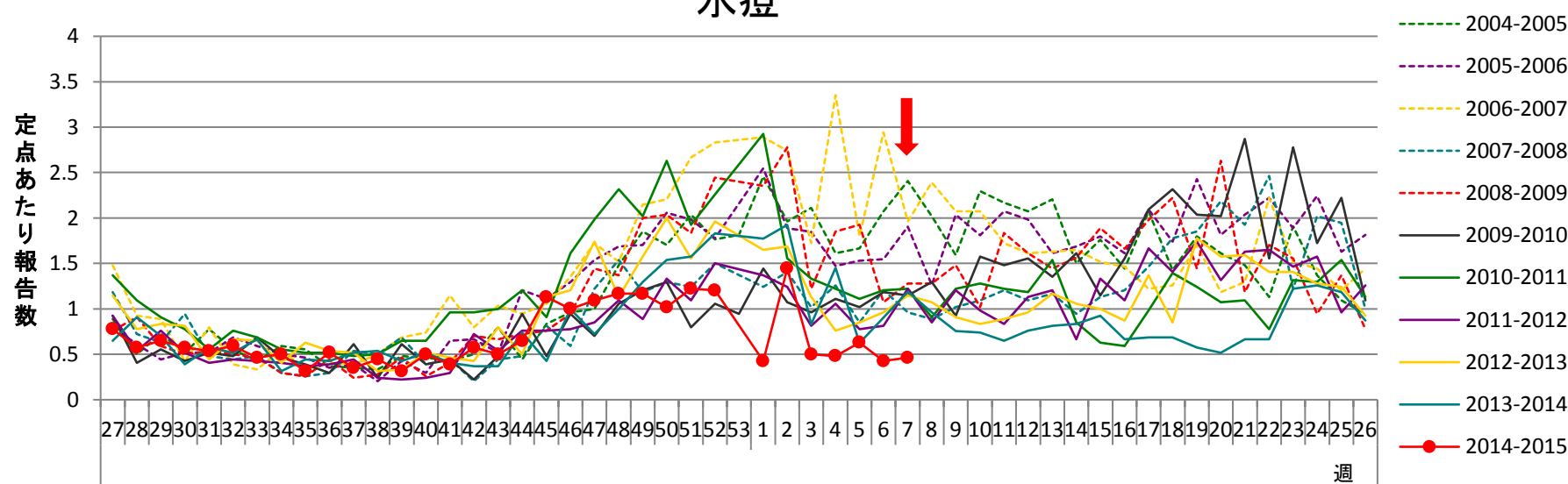
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



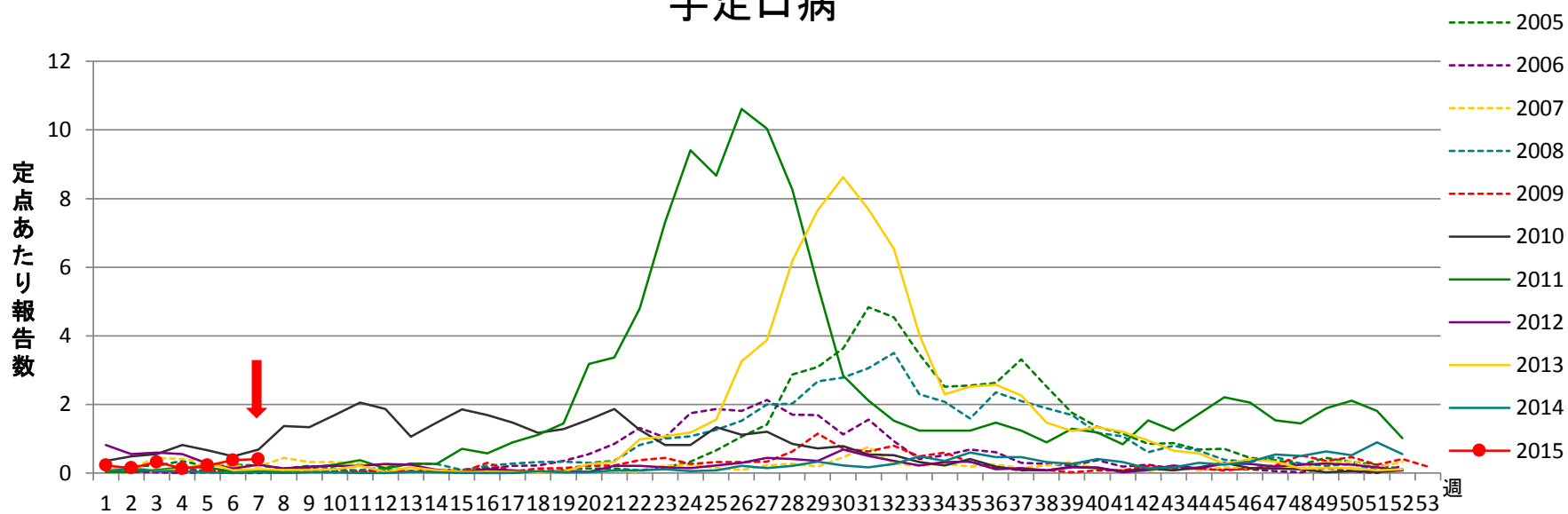
感染性胃腸炎



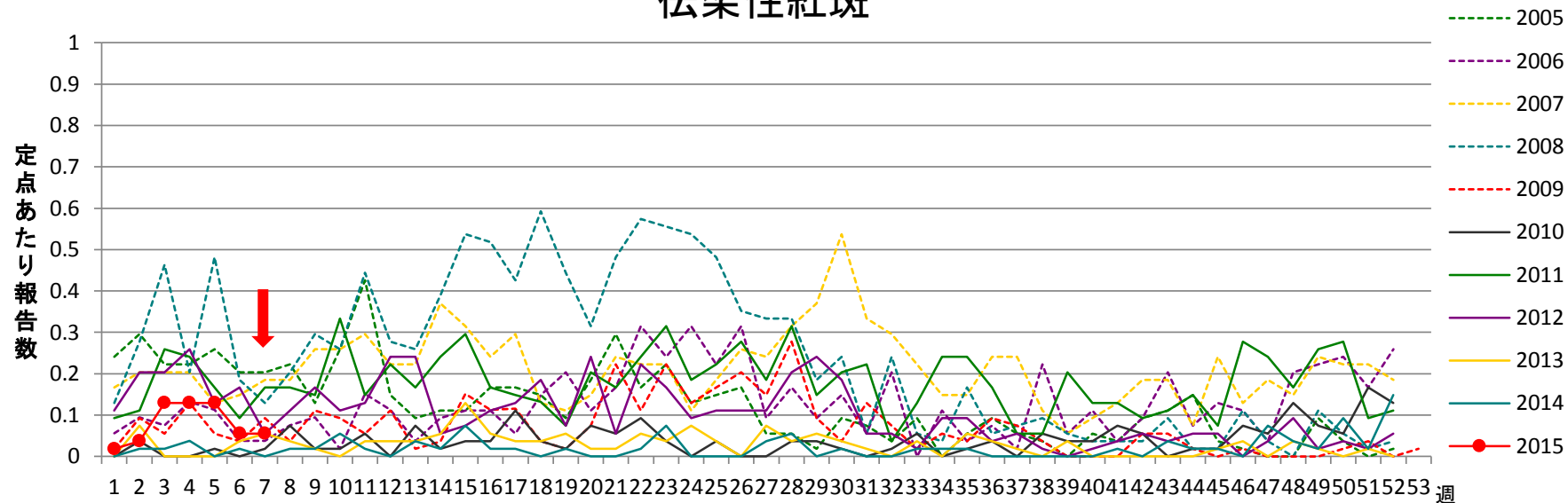
水痘



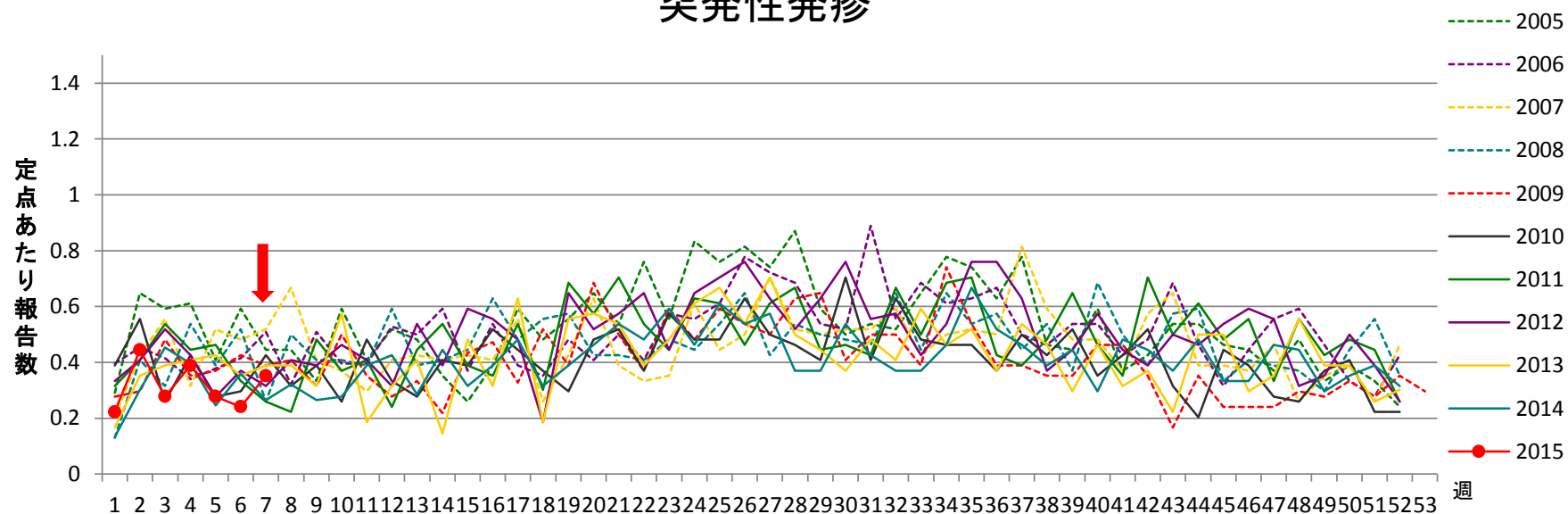
手足口病



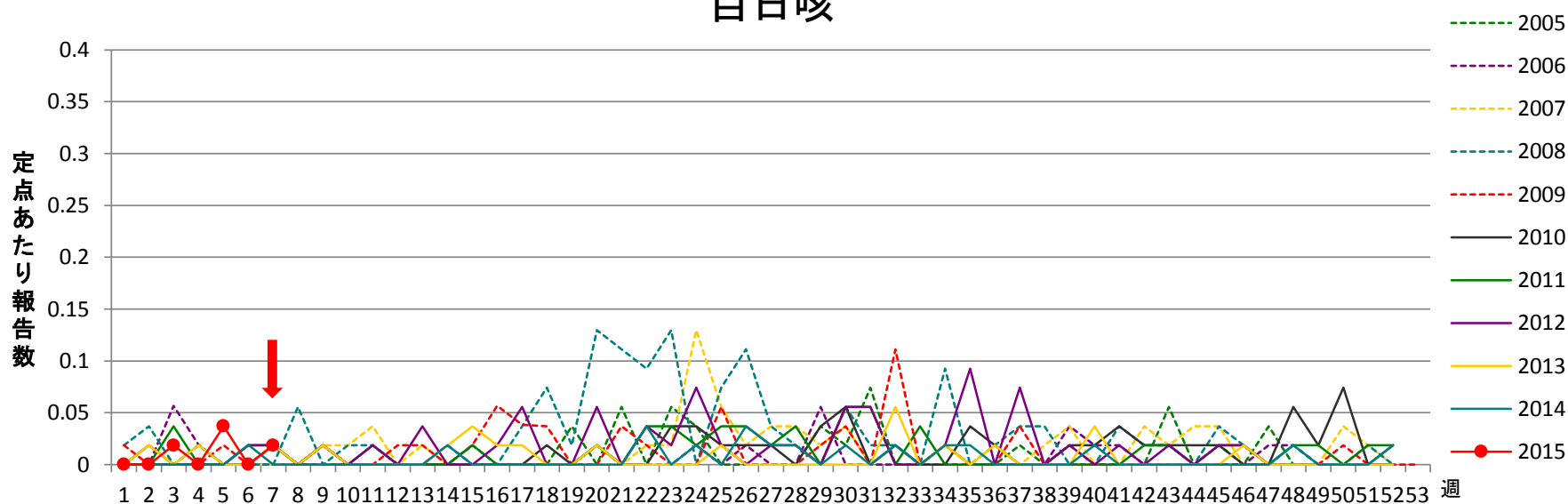
伝染性紅斑



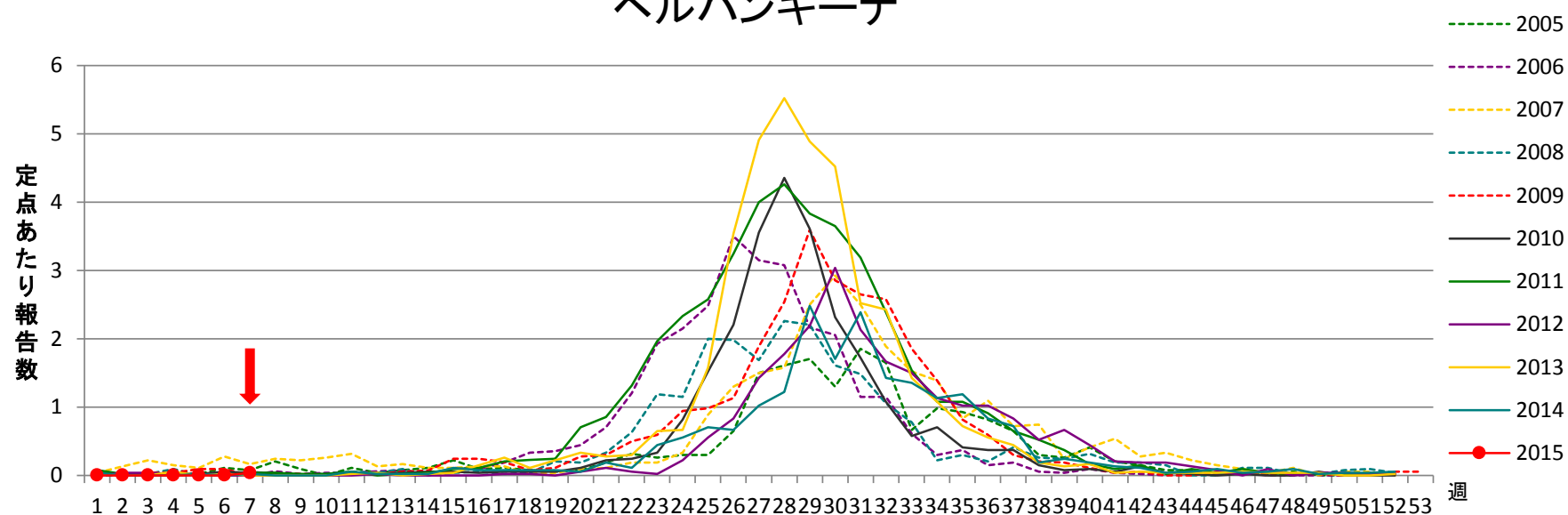
突発性発疹



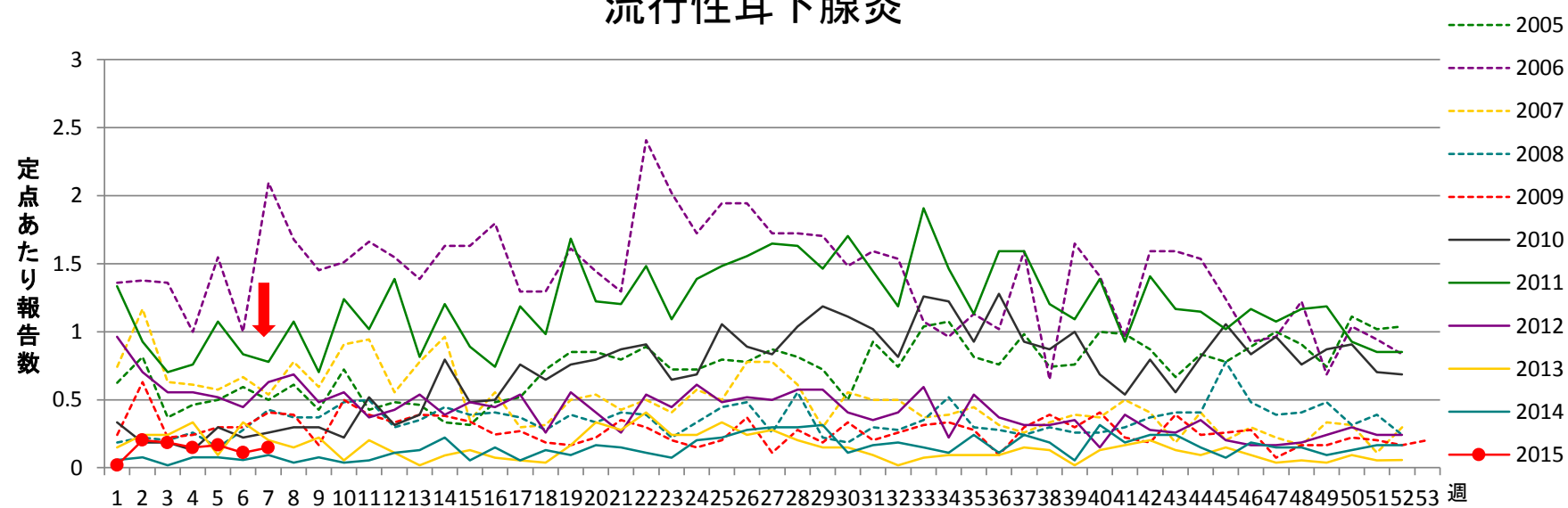
百日咳



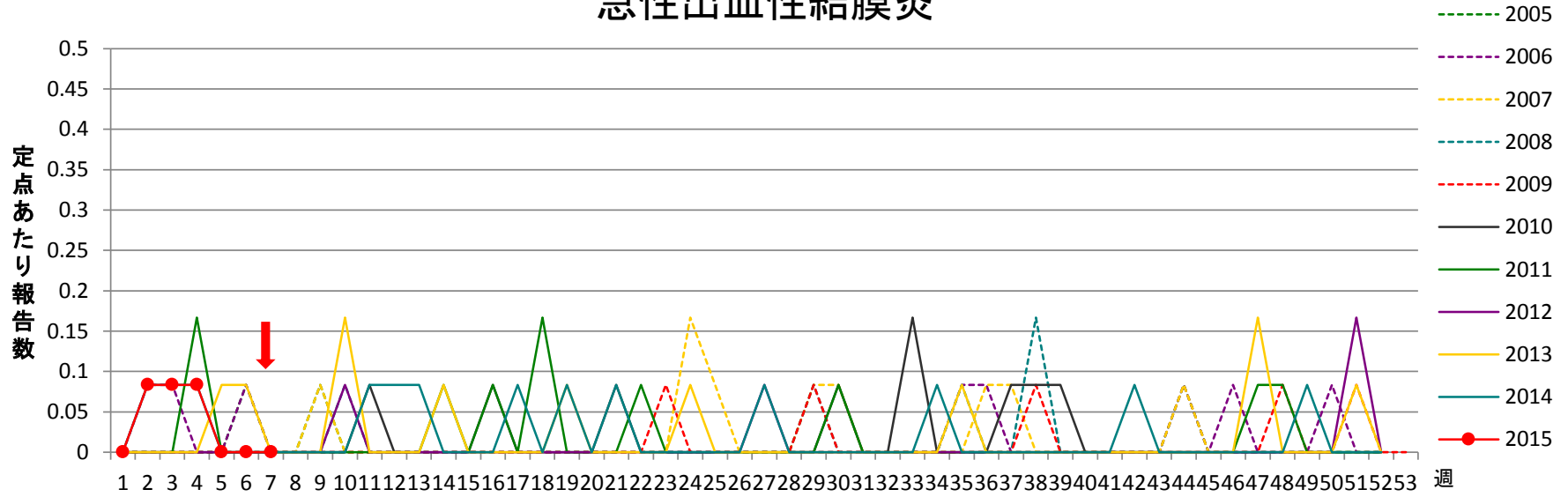
ヘルパンギーナ



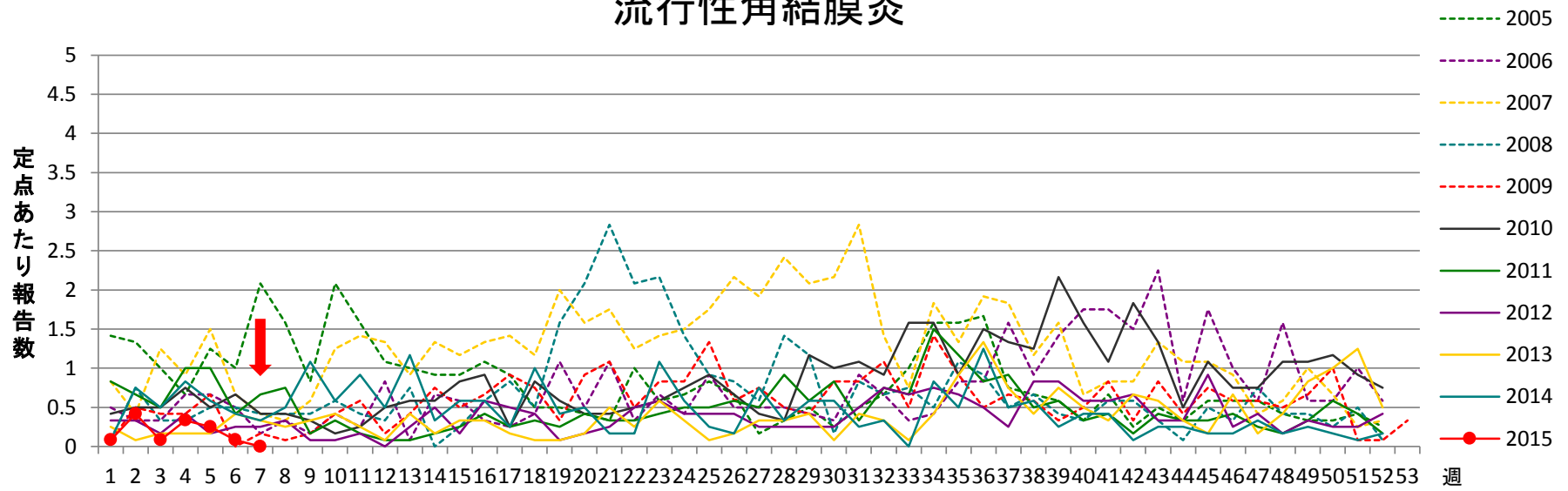
流行性耳下腺炎



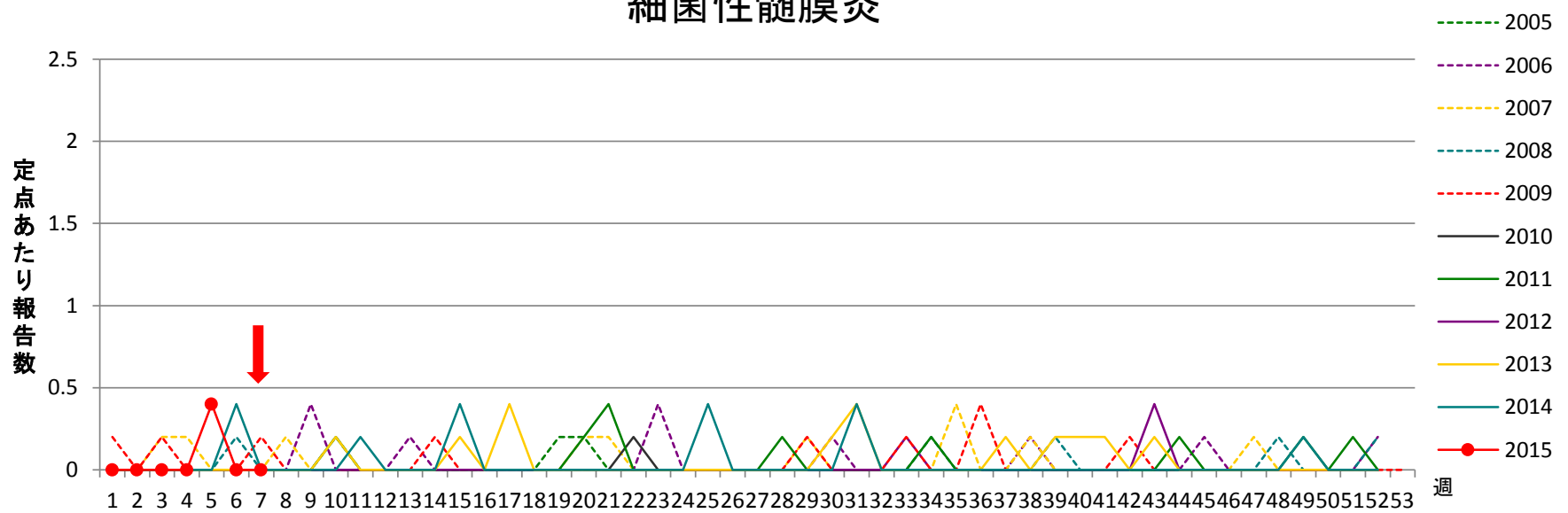
急性出血性結膜炎



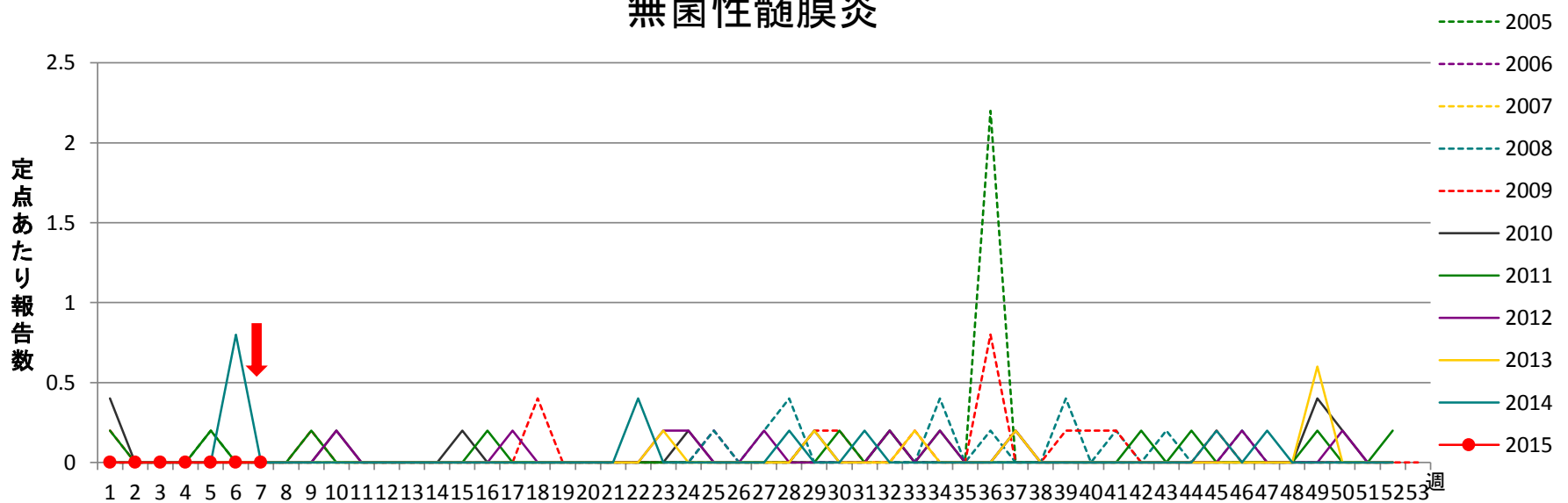
流行性角結膜炎



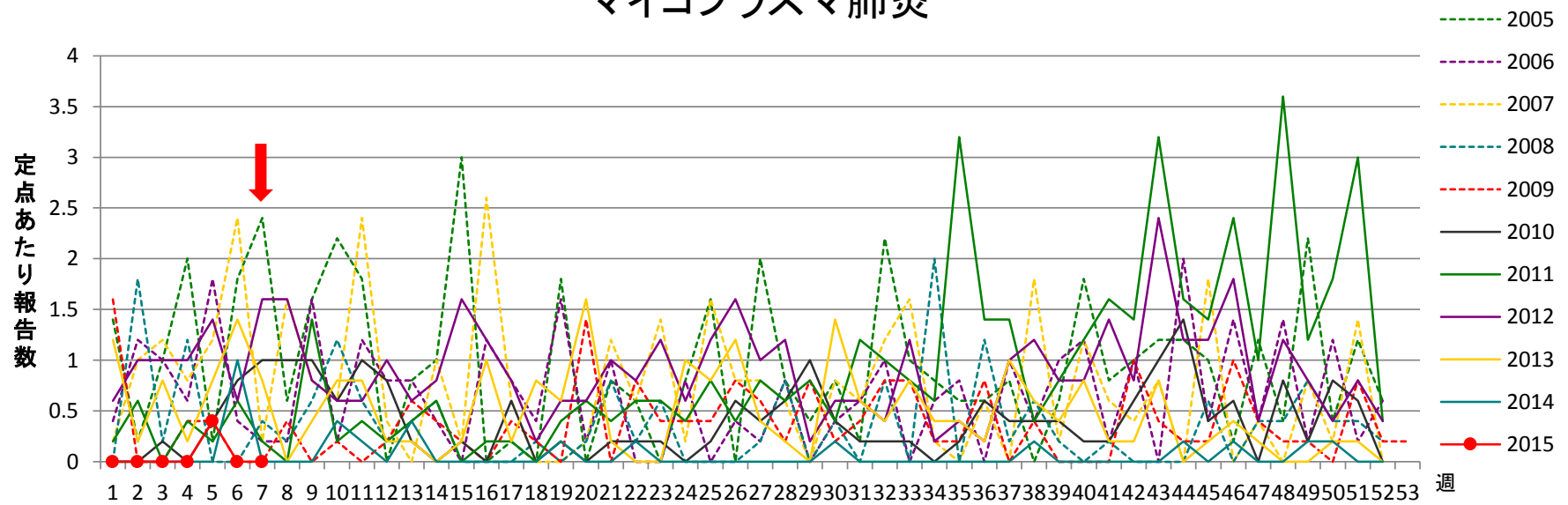
細菌性髓膜炎



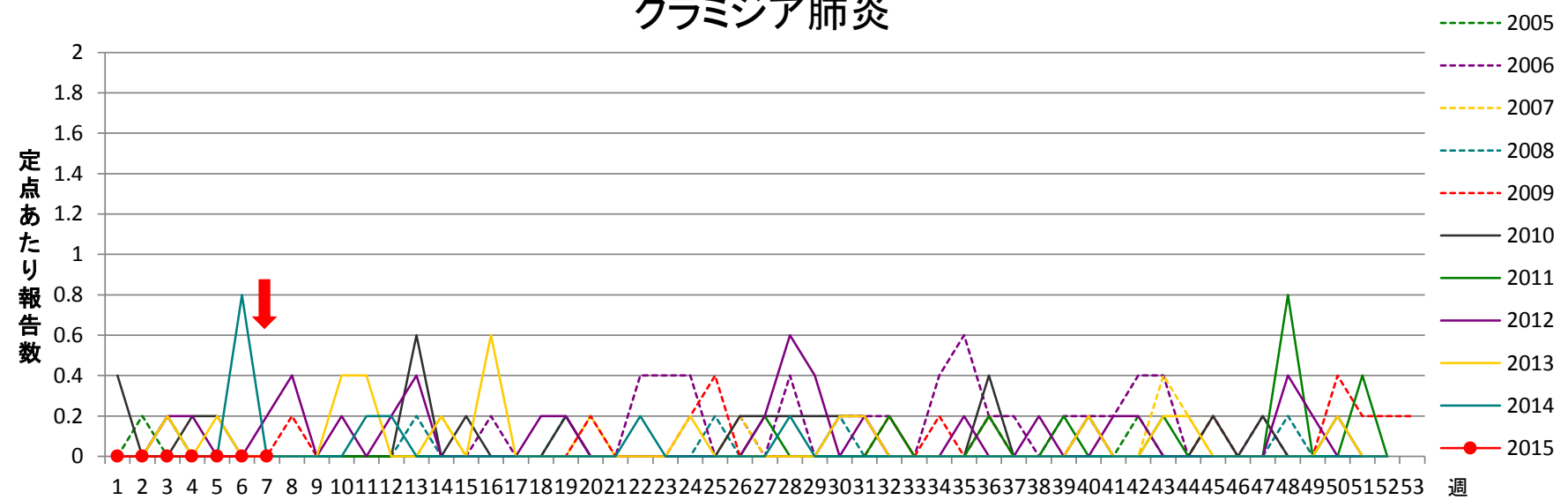
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

